

# 5 新潟の水辺・鳥屋野潟の持続可能な郷土づくり



## 1 社会資本の概要

新潟市中央区にある「鳥屋野潟・新潟県スポーツ公園」は、一級河川信濃川水系の鳥屋野潟の南側に位置する広大なスポーツ施設を中心とした公園です。公園の中には、南・北多目的運動広場等の運動施設やカナル等の修景施設、自然生態園、ピタハウス等の学習施設が整備されています。

周辺施設には、2002年のワールドカップサッカー会場となったデンカビックスワンススタジアムとHARD OFF ECOスタジアム新潟(県立野球場)が設置されており、その周辺の園地とともに、新潟県におけるスポーツの拠点として広く県民に親しんでもらえる公園となっています。



鳥屋野潟・新潟県スポーツ公園

## 2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

1979年に地元企業8人ほどのメンバーが発起人となって、ゴミを拾いながらのウォーキングを始め、様々な人々が色々な方法で新潟の水辺(鳥屋野潟)の自然環境を大切にしていこうと、1980年に地域を大切に作る社長や店主が集まり新潟市南商工振興会を発足しました。

「にいがたカナル彩は、新潟の水辺・鳥屋野潟がある新潟県スポーツ公園で、水辺アクティビティなどを通じて、子どもたちを中心に新潟の自然環境を五感で感じてもらい、新潟の魅力を次代に繋げていく事業です。本事業は、学生もインターンシップで参加し、地域全体がSDGsの目標を掲げ、事業後もサスティナビリティレポートを地域で共有し、地域全体がコミュニケーションを図り、持続可能な郷土づくりを行っています。

その後、「鳥屋野潟の自然環境をずっと守っていききたい」「子どもたちの笑顔と未来をつくりたい」という想いを掲げ、市民と地域行政が一体となり地域のお祭り「にいがたカナル彩(さい)」が誕生し



にいがたカナル彩



みなとまち新潟を伝える水辺の利活用



子どもたちのステージイベント

## 3 活動の成果や波及効果等

にいがたカナル彩は、水辺アクティビティなどにより、新潟の自然環境を五感で感じてもらう取組を実施しています。活動には、地元学生が参画するなど地域全体でコミュニケーションを図りながら、「持続可能な郷土づくり」を行っています。これにより、毎年5万人を超える参加者を集め、地域活性化へ寄与するとともに、新潟の魅力を次世代に繋げています。

また、地域のお祭りから持続可能な郷土づくりへと事業目的を発展させ、企業の協賛行為を郷土づくり投資に転換しました。その結果、新型コロナが蔓延しても、変わらず資金調達を可能としています。効果としては持続可能な郷土づくりと企業ブランディングの「Win-Win」が実現しています。

更に、Jリーグ・アルビレックス新潟ホームゲームとの事業開催が加わり、県外から来るアウェーチームの子どもたちも含め新潟の自然に親しんでもらい、新潟の魅力を感じてもらっています。



高校のSDGs委員会  
環境活動の発表



ダンスコンテスト



アルビレックス新潟  
ホームゲームとの事業連携



県内高校の生産物販売

## 喜びの声



### 受賞者

にいがたカナル彩  
実行委員長  
肥田野 正明

## コメント

この度の受賞で、より多くの方々に活動を知ってもらえたことが非常に嬉しかったです。今後も持続可能な事業をより多くの方々と連携し、次代に繋げられるよう活動して参りたいと思います。引き続きよろしくお願いいたします。

## 活動の内容

- 「にいがたカナル彩」の開催
  - 地元大学と公園利活用においてゼロイチ事業を構築
  - 地元銀行と連携し、アイデアを共有して事業化を実現
- など

## 活動の経歴

- 昭和55年 新潟市南商工振興会設立
  - 昭和56年 新潟市の「桜まつり」が始まる
  - 昭和62年 新潟県の「都市緑花祭り」が始まる
  - 平成12年 「桜まつり」「都市緑花祭り」を統合し、「にいがたカナル彩(さい)」が誕生
- 以後、活動を継続中

- 所在地** 新潟県新潟市中央区清五郎33-1
- 活動主体及び連絡先** 新潟市南商工振興会  
TEL:025-282-7108
- 対象となる社会資本** 鳥屋野潟・新潟県スポーツ公園  
※管理者:新潟県

